

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4091300048		
法人名	株式会社 ケアリング		
事業所名	グループホーム 竹の庵		
所在地	〒814-0142 福岡県福岡市城南区片江1丁目20番10号 Tel 092-865-5444		
自己評価作成日	平成29年08月04日	評価結果確定日	平成29年09月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は昨年度に二度の看取りケアを経験し、この竹の庵にて御見送りさせて頂きました。つらく悲しい経験でしたが、私たち介護職員が介護をする意味というのを見つけられた気がしました。我々グループホーム竹の庵の介護職員は高いモラルを持ち、「その人らしくいきいきとした生活」を実現するために、日々介護の技術向上のために切磋琢磨しております。水分・排泄・睡眠等の重要性をしっかりと認識し、「寝たきりにさせない」「褥瘡を作らせない」ことは当然のこととして、グループホームで働く認知症介護のプロとして、これからも、ご家族や地域、他職種と連携し、あらゆる資源を活用し、竹の庵の入居者様の生活がよりよきものになるように努力していきます。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5番27号 Tel 093-582-0294		
訪問調査日	平成29年09月05日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「竹の庵」は、郊外の閑静な住宅街の中にデイサービスと併設で、1ユニット(定員9名)のグループホームである。国産天然木を利用した建物は、木の温もりと落ち着いたアットホームな環境を整えている。利用者がホームの中で自分らしく生きるために、洗濯物たたみや、体操、ソファで横になったり、計算問題を解いたりしながら、リビングルームの中で思い思いに寛いでいる。地域医療に拘る協力医療機関の往診体制と、訪問看護による健康管理は24時間対応で、早期発見・治療に取り組み、利用者が安心して終末期を過ごせる体制が整っている。また、職員と管理者が利用者と共に過ごす意義について考え、目標を掲げ利用者の個性や価値観に配慮した介護が、利用者の笑顔を取り戻し、見守る家族からは、感謝と喜びに包まれ、ホームとの深い信頼関係を築き、頼りになるグループホーム「竹の庵」である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25.26.27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9.10.21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20.40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2.22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38.39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11.12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32.33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自 己	外 部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	竹の庵では、入居者様を「人生の先輩」であることを忘れず、思いやりをもって接することをモットーにし、理念を事務所に掲示して、毎日唱和するようにしています。	理念を見やすい場所に掲示し、毎日の申し送り時に出勤職員で唱和し、理念の意義や目的を理解して、利用者本位の介護サービスに取り組んでいる。また、毎年理念を振り返る機会を設け、理念に基づいた介護が、実践出来ているかを職員間で確認し、職員は介護の原点に戻っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の方のお庭に招かれたり、そこで育てたお花や野菜を頂いたりしています。認知症カフェ等に参加し、交流する機会をもつようにし、また町内会の一員として、廃品回収や清掃活動にも参加し、近隣の方とも顔見知りの関係になっています。	利用者職員は、地域の一員として清掃活動や廃品回収、認知症カフェ等に参加し、地域の方と親しく話し、花や野菜の差し入れがあったり、ホームの餅つき等の行事にも地域の方や、ボランティアが参加して、地域に餅を配る等、開設9年目を迎え年々交流の輪が広がっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居者様と買い物や近所へ散歩に出た際に、店員や近所の方に接し方などを説明しています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在、同じ敷地内に併設している小規模多機能「かたえの杜」と合同で偶数月に開催しています。竹の庵の情報をお伝えしたり、民生委員や近隣の方から公民館の行事などの情報を頂いたりしています。	2ヶ月毎に年6回開催する運営推進会議は、ホームの現状や取り組み、課題等を報告し、参加委員からは、質問や要望、情報等が提案され活発な会議である。出された案件や勘案事項を検討し、ホーム運営や業務改善に活かせるように取り組んでいる。また、次の会議で結果や進捗状況を参加委員に報告している。	参加委員を増員し、家族が参加しやすい日時に日程調整したり、薬剤師や地域で活動している知見者、複数の民生委員、元家族等から参加を募り、会議の活性化を図る取り組みに期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営に関して、判断に迷うことがあれば福岡市の担当者に連絡をとり、指導を仰ぐようにしています。	管理者は、ホームの空き状況や介護の疑問点、困難事例、事故等について、行政窓口にご相談し連携を図っている。運営推進会議に地域包括支援センター職員が出席し、ホームの実情を理解して、アドバイスや情報を提供して貰い、行政と協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	竹の庵では、夜間は防犯の為、施錠をしています。日中は施錠をせず、誰でも訪問できるようにしています。また未だに身体拘束の事例が続いていますが、ご家族様を含め、拘束解除に向け取り組みを強化していきます。	外部や内部研修会で、身体拘束について学び、職員間で言葉や薬の抑制も含めた拘束について話し合い、禁止行為の具体的な事例を挙げて検証し、安全面を考慮した介護の実践に取り組んでいる。やむを得ず身体拘束を行う場合は、家族の承諾を得て期間を定めて行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(株)ケアリングでは「人種・性別・年齢等あらゆる差別を排除する」を企業理念として実践しています。竹の庵でも差別のない、親切・丁寧な介護を心がけ、高齢者虐待防止関連法についても研修を行っております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度の資料やパンフレットを用いて内部研修を行い、いつでも閲覧できるようにしています。	現在権利擁護の制度活用の利用者はいないが、資料やパンフレットを整備し、内部研修会を実施し、制度が利用者にとって重要であることを職員が認識し、利用者の権利や財産が、不利益を被らないように支援している。また、利用者や家族から相談があれば、制度について説明し、関係機関に相談し、申請手続きが行われるように支援出来る体制を整えている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に際してはご家族様に対して、契約書、重要事項説明書を基に説明を行っています。ご契約前には必ず来所して頂き、居室や実際の介護現場などを見学して頂いてから、納得されたうえで契約するようにしています。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様のご要望はできる限りすぐに実現できるようにしています。またご家族様のご要望に関しても、訪問回数の多いご家族様は面会時、遠方にいらっしゃるご家族様には電話にて、現状報告とご意見を伺うようにしています。	日常生活の中から利用者の思いや希望を聴き取り、家族面会時に職員が話し合う機会を設け、家族とコミュニケーションを取りながら、意見や要望、心配な事等を話し合い、ホーム運営や利用者の介護計画に反映出来るように支援している。また、面会の少ない家族とは、電話で話し合い、利用者の健康状態や近況を報告し、家族から意見や要望を聴き取っている。	ホーム便りを定期的に発行し、利用者の健康状態やホームでの暮らしぶりを伝え、家族の安心と信頼に繋げる取り組みに期待したい。
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングの場にて、職員の意見や希望を取り上げ、実際の支援方法や運営に反映させている。	職員会議を毎月定期的に関催し、話しやすい雰囲気の中で、ホームの運営や業務について話し合い、カンファレンスを行い、職員の意見や要望、気になる事等が提案され、出された意見や要望を検討し、出来る事から実行し、職員の意欲に繋がる職員会議を行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	会社内で年二回個人評価シートを使い、自己評価と上司による評価を行い、昇給・昇格に反映させています。職員がそれぞれ日々の目標を持ちやりがいをもって、竹の庵で働けるように努めています。		
13	9	○人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	竹の庵では、(株)ケアリングの実践している「あらゆる差別を排除する」の通り、性別、障害の有無、国籍に関係なく雇用の対象としています。社内の各部署において、お互いをフォローし合いながら働いています。	管理者は職員の特長や能力を把握し、適材適所に役割分担し、職員が働きやすい職場を目指している。職員の募集は、年齢や性別、経験や国籍の制限はなく、真面目で働く意欲を優先している。採用後は、新人研修やスキルアップ研修を受講し、介護の知識や技術の習得に取り組んでいる。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	入居者様を「人生の先輩」として敬うことを忘れず、尊厳を守ることを大切にしています。	利用者の人権を尊重する介護の在り方を職員間で話し合い、言葉遣いや対応に注意し、利用者を人生の先輩として敬愛し、日々の生活が、利用者の尊厳のある暮らしになるように工夫し、利用者が重度化しても、ホームの中で生きがいのある、暮らしが出来るように取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の心身状態や介護技術を把握し、無理のない勤務体制を敷き、社内外両方の研修の情報を職員に提供するように努めています。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会や研修等を通じて、同業他事業所の方と交流を持ち、竹の庵の介護の質の向上に繋がるよう努めています。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ケアマネージャーが事前に収集した情報やそれをまとめたアセスメントシートを基に、日々の入居者様の表情、言葉、行動を注視し、記録に残しながら、試行錯誤を繰り返し、その入居者様に合った支援方法は何か模索しながら関係づくりを行っています。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居されて1年に満たない入居者様が3名いらっしゃいますが、面会時やお電話にて、報告・連絡・相談を行い、ご要望があればすぐに対応できるようにし、ご家族が施設に対して遠慮されることのない関係づくりに努めています。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ミーティングにて、職員同士が入居者様の様子やご家族の要望について話し合い、訪問診療や訪問歯科、薬剤師など他職種と連携し、入居者様それぞれに必要な支援ができるような体制をとっています。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	竹の庵では入居者様と職員は「家族」として位置づけ、入居者様ができること、職員ができることを通じてコミュニケーションをとり、信頼関係の構築に努めています。		
21		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	竹の庵ではご家族様は、入居者様を支援するチームの一員であると考え、職員の知らなかった入居者様の一面を教えていただいたりなどし、コミュニケーションのツールとして活かしています。またイベント時にはご家族様にもご参加してもらい、入居者様と過ごす時間を大切にしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	住み慣れた場所や、馴染みの場所への外出の機会は少なくなってきました。近所のお店などに散歩に出たり、DSや小規模多機能の利用者様と交流を持てるよう支援しています。	利用者と職員は、1階のデイサービスに出掛けて、レクリエーションに参加したり、お気に入りの場所に散歩やドライブに出かける等、馴染みの関係継続に取り組んでいる。利用者の重度化や友人、知人の高齢化で交流する機会が少なくなっているが、面会時には、ゆっくり寛げるような場所や、お茶等を提供し、何時でも面会が出来るように配慮している。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様の性格やBPSDの出現しやすい時間帯などを考慮し、職員が間に入りながら交流を持てるように日々努めています。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や終末期介護に関して、ご本人やご家族の様子やご意向を聴きながら、最善の支援ができるように努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入床・起床時間や食事時間など入居者様の中で違いがありますが、職員が臨機応変に対応しています。また認知症状のため上手くご自分の訴えを表現できない利用者様に対しては、根本の原因を探り、解決できるように、入居者様の立場に立って考えています。	ホームの日常生活の中から、利用者の思いや意向を聴き取り、職員間で情報を共有し、思いの実現に取り組んでいる。意向表出の困難な利用者には、家族に相談し、職員が諦めずに利用者に寄り添い、話しかけ、利用者の表情や目の動きから、思いに近づく努力をしている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に大まかな情報は得ていますが、共に日々暮らす中で、入居者様の突発的な発言から新たな情報を得たりすることもあります。またご家族様との会話の中で得られるものも多いです。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	竹の庵では、日々、バイタルサインや排泄、水分、食事量などはもちろん、入居者様の認知症状や職員の関わり方を詳細に記録し、入居者様の状態や生活リズム、保有するADLを把握し、日々の中で異変は起きてないか観察しています。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネージャーがリーダーシップをとり、入居者様お一人お一人の課題や、変化をミーティングの場にて、職員が議論をし、最善の支援方法は何か模索しています。	利用者や家族とコミュニケーションを取りながら、意見や要望、気になる事等を聴き取り、職員会議の中でカンファレンスを行い、利用者本位の介護計画を3～6ヶ月毎に作成している。また、介護計画の実施状況や目標達成状況を確認し、その結果を踏まえて介護計画の見直しをその都度行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者様それぞれの様子を個別に詳細に記録をしています。申し送り時や伝達ノートにて情報の共有を行っています。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様やご家族さまのご要望があれば、他の事業所等と連携をとり、ニーズを充足する為の対応を取っています。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の中で、買い物や散歩に同行しながら、季節感を感じたり、近所の方とお話したりと竹の庵の近隣の中では実感できたのではないかと思います。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	現在全ての入居者様が訪問診療を受けられています。月に2度の往診で、医師が入居者様それぞれを丁寧に診られており、24時間対応していただけます。必要があれば他の医療機関への紹介状も書かれます。	契約時に利用者や家族と話し合い、かかりつけ医と、往診体制が整っている協力医療機関を選択してもらい、現在は利用者全員が毎月10回以上往診できるホームドクターを、主治医としている。また、併設事業所の看護師と介護職員が協力し、利用者の小さな変化も見逃さず、24時間安心して任せられる医療連携が整っている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在竹の庵には常勤の看護職はおりませんが、訪問看護ステーションと緊密に連絡をとり、入居者様の状態管理に努めています。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先のソーシャルワーカーと連絡を密に取っている。竹の庵で生活できるレベルであるかを把握する為の相談もできている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りの指針作りは継続して行っております。ご家族のご意向も把握できていますが、これにつきましては何度でもご家族と話し合いを重ねるつもりです。また竹の庵の有する能力とも勘案しながら進めていきます。	ターミナルケアについて、利用者や家族に入居前に説明し、重度化した場合の要望を聴きとっている。利用者の重度化が進むと、家族と常に連絡を取りながら、主治医も交えて、今後の介護方針を話し合い、利用者にとって最善の終末期の過ごし方を確認し、関係者で方針を共有し、利用者や家族が安心して任せられる終末期の支援体制が整っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急対応や応急処置については講習を受けた職員が中心となって講習を行っている。またミーティングの際には、あらゆる場面を想定して、連絡手順や対応方法を話し合っています。		
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎年夜間対応の訓練は行っています。小規模多機能居宅介護「かたえの杜」が併設されたこともあり、支店全体での避難訓練を行う予定です。	防災訓練は、消防署の協力と指導を得て行い、夜間想定訓練では、2階の利用者(9名)を安全に一時避難場所に誘導し、消防車が到着するまで待機出来る場所を確保している。また、職員一人ひとりが、防火意識を徹底し、火を出さないための対応方針を確認している。	年2回避難訓練を実施しているが、いざという時に通報から避難誘導まで一人で慌てずに行うことが出来る様に、夜勤者が中心に夜間想定訓練を繰り返し行う事を期待したい。又非常時に備えた備品等の準備が望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	竹の庵では人生の先輩として敬うことを大切にしており、入居者様の尊厳を侵害しない介護を心がけている。丁寧な介護の基本は丁寧な言葉であることを職員に周知し、言葉遣いには気を使っています。	利用者一人ひとりのプライバシーを守る介護の在り方について職員間で話し合い、声掛けや対応に注意し、入浴や排泄の介助では、利用者のプライドや羞恥心に配慮したり、同性介助を出来るだけ行い、羞恥心に配慮した介護の実践に取り組んでいる。また、利用者の個人情報や職員の守秘義務について、管理者が職員と話し合い、周知が図られている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様を否定せず、入居者様の言葉や行動を受容し、共感することで、信頼関係を築き、自己決定できる雰囲気を作るよう心がけている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様のペースに合わせ、職員はその支援を臨機応変に行うように努めています。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理美容を利用して、入居者様のカットを行っている。入床・起床時は化粧水やクリームを塗るなどしてお肌のお手入れもお手伝いしています。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様の好みに合わせた献立を作るように心がけている。また調理の準備などは気分が乗らないとされないが、食後の食器拭きなどはほぼ毎日されています。	利用者の重度化が進み、職員と一緒に調理することが困難になってきているが、食器拭きは毎回お願いし、利用者の力の発揮を支援している。職員が交代で作る手作りの料理を美味しく談笑しながら食べる様子は楽しそうで、利用者の食欲増進と健康の源になっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体重が増加傾向にある方は、食事をやや少なめにして、カロリーを抑えたり、水分拒否のある方は、好みのジュースなどを提供して水分量の確保に努めています。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている。全介助の方もいらっしゃるようですが、過剰介護にならぬよう入居者様ができる部分はご自分でしてもらい、仕上げをスタッフが行っています。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	お一人お一人の排泄の間隔や尿量を排泄記録より把握し、時間的トイレ誘導を行っています。	トイレで排泄することを基本とし、職員は、利用者の生活習慣や排泄パターンを把握し、利用者一人ひとりに合わせた声掛けや誘導を、タイミングを見ながら行い、失敗の少ないトイレでの排泄の支援に取り組んでいる。また、夜間もトイレ誘導を行い、利用者の自信回復とオムツ使用の軽減に取り組んでいる。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘や下痢に由来するBPSDもあり、職員は排便コントロールの重要性を理解しています。野菜や水分を多めに取ってもらうよう、献立を工夫したり、水分をとって頂くようお声かけしています。また医療職の指導による腹部マッサージも行っています。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的に週2~3回実施しています。拒否がある場合は延期するなどしています。	利用者の重度化が進み、職員が入浴介助する利用者が増加しているため、入浴時間をゆとり取り、シャワー浴も含めて、利用者の健康チェックと清潔保持に努めている。また、入浴は、利用者職員が一对一でゆとり話が出来る時間と捉え、楽しい入浴になるように工夫している。入浴を拒否される場合は、無理強ひせず支援し、入浴が利用者の負担にならないように配慮している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中に傾眠がある場合は適宜臥床して頂いています。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師によって薬は管理していただいています。薬の変更があった場合は、副作用などをチェックし、誤薬が起こらぬよう、職員間で周知徹底しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活レクとして、サカキの入れ替えや食器拭き、洗濯物干しやたたみ、簡単な調理などをお願いし、生活の中でハリが出るように促しています。また午後にはレクレーションの時間をとり、個人的レクや全体レクをおこなっています。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	短い時間で買い物や散歩に同行しています。	利用者全員で外出することがだんだん難しくなっているが、戸外の自然の風に触れながら、個別対応で散歩や買い物、ドライブに出掛け、利用者の気分転換に取り組んでいる。また、家族の協力を得て、外出や花見に出掛けてもらい、利用者の生きがいに繋がる外出の支援に取り組んでいる。	気候の良い時期を利用して外出レクを計画し、個別や少人数での外出レクに取り組み、短時間でも利用者の気分転換や活気のある暮らしに繋げる支援に期待したい。
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭に関しては事業所で行っていますが、入居者様のご要望での金銭の使用はあまりありません。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	誕生日やイベント時にプレゼントが贈られてきた際は電話するようにしている。また入居者様のご要望があった際はご家族様に電話をお掛けしている		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	空気清浄機や加湿器などを使用し、適切な空調管理を行っている。また所内は木材を使用したぬくもりのある空間で居心地のよいものとなっている。	2階建ての2階部分に位置し、建物内は、バリアフリーを全館に設置し、音や照明、温度や湿度、換気に注意し、キッチンから調理の匂いに誘われて、利用者がリビングルームに集まり、楽しい食事が始まっている。また、仲の良い利用者同士が横に座り、職員とゲームや体操で盛り上がり、楽しい会話の中で、一日一日を大切に暮らした暮らしの支援に取り組んでいる。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様の気分や状態によって随時対応、工夫している。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族様のご協力を得て、居室内には、長年使われていたダンスや鏡台を置いていただき。また写真なども多く飾らせて頂いています。	利用者が愛用のお気に入りの家具や寝具、鏡、家族の写真、思い出の品等を家族の協力で持ち込み、生活環境が急変しないように配慮し、自宅と違和感のない雰囲気レイアウトして、利用者が安心して穏やかに暮らせる、清潔で居心地の良い居室である。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様が意欲的にされること、できることを見つけ、把握し、竹の庵での生活をより多くの笑顔にあふれるよう支援したいです。		